

会議録

(1) 会議名
第4回北杜市八ヶ岳スケートセンター周辺地域活性化協議会

(2) 開催日時
令和5年1月30日(月) 午後2時～午後3時50分

(3) 開催場所
北杜市役所本庁 北館3階大会議室

(4) 出席者
委員

学識経験者	田中 敦
地域を代表する者	高橋 隆
地域を代表する者	進藤 幸夫
地域を代表する者	遠山 俊祐
関係団体の代表者	望月 和彦
関係団体の代表者	小林 明
関係団体の代表者	田中 充
関係団体の代表者	小林 昭治
関係団体の代表者	中山 宏樹
関係団体の代表者	大川 正勝
関係団体の代表者	林 新太郎
関係団体の代表者	山寺 法和
関係行政機関	初鹿野 晋一
関係行政機関	三井 博志
関係行政機関	安藤 明範
関係行政機関	有泉 清貴
関係行政機関	小泉 嘉透
関係行政機関	渡邊 聡尚
関係行政機関	利根川 昇
教育機関	小池 雅美

市

関係部局長、関係課長

事務局

北杜未来部長 宮川勇人

政策推進課長 川端下正往

政策推進課政策調整担当リーダー 篠原振一郎

政策推進課政策調整担当 清水将

(5) 議題

- ・活性化構想の策定について
- ・その他

(6) 公開・非公開の別 公開

(7) 傍聴人の数 1名（報道関係者含む）

(8) 議事の進行経過

1. 開会

午後2時

2. 公開の可否の審議

(事務局)「北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱」第4条に、公開非公開の決定は会議の開催前にあらかじめ決定することが規定されている。については、同要綱第3条に基づき、本日の会議は公開としてよろしいか。

(委員一同) 異議なし

(事務局) 異議なしとのことなので、本日の協議会は公開とする。

3. 会長挨拶

(小林委員)

- ・本協議会も4回目を迎え、いよいよ活性化構想のとりまとめとなる。委員の皆様には、これまで約2年間に渡り、構想策定に向けて、活発に御意見をいただいたことに感謝申し上げます。
- ・新型コロナウイルス感染症については、ゴールデンウィーク明けの5月8日から、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げるとの報道がされた。今後はウィズコロナ時代を見据えた取組を進めていく。
- ・八ヶ岳スケートセンターは、今年から冬場の営業を行っており、来年度以降、リンク内側をスケートボードやインラインスケートなどができるよう工事を開始する見込み。フルオープンは今和6年を予定しており、新たなスポーツ施設として生まれ変わる予定である。
- ・委員の皆様には、本協議会後も、構想実現に向けて御協力を賜りたい。

4. 議事

(事務局)協議会設置要綱第6条に基づき、小林会長に議長となつていただく。

小林会長に議事の進行をお願いする。

(議長) それでは議長を務める。

会議録については、「北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱」第9条により会議の会議録を作成し、公表することとなっている。

また、会議録には会議で指名する者、2名以上の署名が必要であり、議事録署名委員を委員の中から指名する。

前回会議から続き、「あいうえお」順で、小林委員と進藤委員を指名する。

それでは、議事について事務局より説明を求める。
(事務局) 議事の(1)活性化構想の策定について、別紙資料をもとに説明。

【以下、説明の要旨】

○本日の会議の論点

今回の会議の目的だが、事前に書面にてヒアリングをさせていただいた御意見を踏まえ、活性化構想の修正を行ったため、その内容の確認をお願いしたい。

その上で、委員の皆様から追加での御意見があれば伺いたい。

本協議会での内容を踏まえ、最終的な活性化構想の策定を考えているので御協力をお願いしたい。

○会議スケジュール

前回第3回協議会を昨年8月8日に開催した後、第4回目のワーキンググループ(以下、WG)を11月24日に開催し、推進体制及び活性化構想の内容について、御意見をいただいた。

WGの御意見を踏まえた活性化構想の素案について、本日お集まりの委員の皆様が書面にて事前ヒアリングを実施し、本日の第4回目となる協議会を迎えているところである。

○活性化構想策定における補足事項

今までの会議での御意見を踏まえ、改めて策定後の推進体制を検討する中でも、本エリアの強みは、やはり「観光」であると考えられることから、観光面での事業者、団体を中心とした組織の構築が有効である。

また、より小淵沢エリアの事業者の皆様が参画しやすい体制、かつ地域課題の検討が有効なものになるよう、名称を「スケートセンター周辺」よりも広いエリアとした推進委員会を創設するものとした背景がある。

○推進体制についての最終案

この委員会は、活性化構想の実現に向けた推進組織として、小淵沢エリアの観光に係る事業者や団体の皆様に参加していただくことを想定し、「小淵沢地域観光推進委員会(仮称)」としている。

なお、名称については、設置要綱を庁内にて検討中であるため、現時点では仮称である。

この委員会の役割としては、構想推進に関する進捗管理、連絡調整や、情報共有、実施する施策やロードマップ作成の検討を考えている。

また、補助金の活用など、必要に応じて、事業の実施主体となることも想定する。

なお、事前ヒアリングにおいて、推進体制の図の、「委員会への『支援』は県や市からだけでなく、民間企業等からも考えられるのではないか」との御意見をいただいたことを踏まえ、事業によってはクラウドファンディングや企業版ふるさと納税の活用なども考えられることから、図の支援する組織の中に、「民間企業等」を追加している。

○今後のスケジュールについて

本協議会は構想を策定する本年度をもって廃止とし、新たな推進委員会を設置する予定である。

推進委員会は、定例ではなく、施策の検討状況や委員の皆様からの御意見をいただく中で、年数回程度の開催を予定している。

○事前ヒアリングに基づく修正について

事前ヒアリングに基づき修正した箇所について、別冊の「北杜市小淵沢地域活性化構想」(案)をもとに説明。

○事前ヒアリングによりいただいた御意見

その他、施策検討の参考となる主な御意見として、自転車での周遊に当たっては、既に取り組んでいる COGICOGI などの事業をまずは拡大する方向が良い、といった御意見や、アクティビティメニューの充実などにおいては、アウトドア系事業者にも協力していただくのが良いといった御意見をいただいた。

また、来訪客を増やすために、子供育成会や企業の福利厚生などの親子イベントなど団体向けに提供できるサービスが有効との御意見などをいただいたところである。

全体にかかる御意見としては、「また行ってみたい。人にも勧めたい。」と思えるリピート要素がカギになるといった御意見や、まずは、県内のファミリー層が来てくれる地域としての取組を考えても良いのではないかと、いった御意見をいただいた。

また、長野県と通じる主要道の整備延長や、レインボーラインなどの観光客が多く通る道路の景観整備なども検討する必要があるといった御意見をいただいたところである。

資料にはないが、前回協議会において、野外騎乗の整備、馬の道の整備を検討してほしいとの御意見があり、回答保留となっていた。

こちらについては、県農政部畜産課様から、以下の回答をいただいている。

平成11年度の大東豊地区への乗馬トレイルコース設置や、その後も暗渠排水や待避所等の整備事業への支援を実施した経緯があり、現時点は、畜産関係で補助事業はないとのことである。

【以上】

(議長) 事務局からの説明が終了したが、皆様からの御意見を伺いたい。

(委員) スケートリンクについて、夏場の活用はどうなるのか。

(事務局) 現在のところは内側を改修し、スケートボードやインラインスケートを楽しめるようにする予定である。

(委員) 改修の資金集めに当たって、企業への呼びかけも考えているか。

(事務局) スケート場の整備に当たっては、現在クラウドファンディングによ

る資金調達を実施している。また、来年度以降、運営に当たっても、クラウドファンディングやネーミングライツなどによる資金調達に向けて検討を進めている。

(委員) 例えばスポーツ系企業など、どこかの一企業を狙ってお願いをすることは考えているのか。

(事務局) 市長のトップセールスで、スケートボード専門の企業やスポーツ系の企業への声掛けはしているものの、具体的な部分はまだである。企業の皆様にも御協力いただけるよう鋭意努力しているところである。

(委員) 総論としては賛同する。施策の内容が夏に傾いているように見える。冬場の施策について考える必要があると思うがどうか。

(事務局) 観光のプロモーションや誘客イベントなど、例は夏場のものが多いが、例えば謎解きゲームなどは冬場にもできると考えている。施策としては通年を想定した形になっている。

(委員) エリア内を周回する手段としては、冬も電動キックスケーターなどを考えているのか。

(事務局) あくまでも電動キックスケーターなどは例となる。施策として「移動手段の確保」を挙げている。冬場には気候等に見合った移動手段の検討が必要と考えている。

また、移動手段については、周遊バスの運行ができないか現在検討している。いずれにせよ、通年での施策としてとらえていただきたい。

(委員) 本エリアには「行くだけでいろいろなことができる」というのが売りになっている施設もある。家族連れなど、ターゲットも包括的に考えて、バスなどの二次交通があった方が良くと思うので検討してほしい。

(事務局) ファミリー層向けの二次交通も課題として参考とする。

(委員) 周辺市町村にも高級なレストランなどができており、市内にも予約のとれない人気の高級レストランがある。将来像において、「食」の要素を入れた方が良くのではないか。

(事務局) ありがたい姿No.3において、「食」について入れており、施策においても「地産地消の推進」「ウェルネスツーリズムの推進」といった中に入れている。「寒いほどお得フェア」も実施中の施策の一例と思うので、推進していきたい。

(委員) 冬の道路管理が厳しい地域である。特に融雪剤をきちんと撒かないと、県道、市道など基幹道路は危険な場合があるため、きちんと対応がされるよう検討してほしい。

(事務局) 確かに標高が高い地域のため、現在、一定以上の降雪があった場合は除雪がされる手配にはなっているが、市の売り出す地域であることを踏まえ、なるべくスムーズに対応できるよう検討する。

(委員) 来年度以降、推進委員会が動き出した際に、具体的な事業が無いと支援を受けるのが難しい面があると思う。実施する施策の検討や、ロードマップ作成の検討など、具体的にどのように進めていくのか、イメージがあったら教えてほしい。

(事務局) 現状、具体的な部分は決まっていない。委員の意見を聞く中で、必要に応じて重点施策などを決め、ロードマップなどの作成を実施していくこ

とになる。現時点で取り組んでいることの推進、また新たな取組については推進委員会で決めていく方針である。

(委員) 会議を通じて地域の魅力を改めて認識した。施策に当たっては、アートなどここにしかないものを押し出すのが良い。目指すべき姿に当たっての数値目標のようなものはあるのか。

(事務局) 活性化構想についてはK P I、K G Iのような数値目標は設定しないこととしている。今後、事業に対する数値目標は必要に応じて必要になるものと考えている。

(委員) K P I、K G Iの設定に当たっては、K F S（重要成功要因）を見つけて、それに対して数値目標を立てるようにしてほしい。S T P分析も活用しながら何をK F Sとするのか、検討をしてほしい。

(事務局) 参考にする。今後、推進委員会を進めていく際にも御助言をいただければと思う。

(委員) 7年間という期間だが、いつまでにどういうものを決めていくか、今後のスケジュールがあれば教えてほしい。また、進めるに当たっての資金などの計画があれば教えてほしい。

(事務局) 構想の段階では、どの事業をいつまでに行うというのは決めていない。今後、必要に応じてロードマップを作成し、必要な費用などを含めた検討をする想定である。

(議長) いろいろと意見を伺った。最終的な構想の策定に当たって参考とさせていただきます。

また現在、構想については「小淵沢地域」としているが、本市の特性上、旧町村をイメージしてしまえば、構想を進めるに当たって対象範囲への考えが変わってしまうため、「小淵沢エリア」とした方が良いと考えているかどうか。

(委員) 特に意見なし。

(議長) では、こちらについては事務局で検討すること。また、今回の意見を踏まえ、構想を事務局にて最終的に決定する

その他の意見が無いようなので、委員一人一人から、今後の活性化に向けての思いや会議を終えての所感などを伺いたい。

【以下、一人一言ずつ意見】

(委員) 白州・長坂も含めてまとまるよう頑張ってもらいたい。

(委員) スケートをターゲットとしているが、行きたい地域や住みたい地域として、小淵沢だけでなく市全体としてうまく行くように進めてほしい。

(委員) ハイシーズンはいいが、平日、冬場は集客が難しい。県外のファミリー層だけをターゲットにするのではなく、いくつかの顔を持たなければならない。地域の活性化のため、お金のためだけでなく、子ども達の育成、スケート振興につながるように考えていくべきと思う。

(委員) 資料作成は大変だったと思う。弊社でも地域開発に取り組んでいる。南アルプス市、北杜、富士、身延と県内を4つに分けて検討中なので、今後横のつながりとして持てれば良い。

(委員) 「小淵沢エリア」とした方がいいと思う。特に、市内でも小淵沢は重

要な観光エリアになっている。北杜についてはインバウンドにも耐えうるようなまちおこしをしてほしい。スケートセンターを核とした活性化に向けて、行政や他人任せでなく、地域の人たちがいかに汗をかくかが求められると思っている。

(委員) 現状、観光事業者は疲弊している。馬については、飼料の価格が上がっている。非常に厳しい状況である。何か補助金、助成金が無いと難しい。また、集客力が無くなってきている大型施設もあると感じる。飲食店についても土日だけ開くという人もいる。ファミリー層をターゲットにするのであれば、自然を生かした施設、森の中で遊べる施設が必要。修学旅行で体験農業をしてもらうなども良い。観光協会も人手不足である。観光協会が地域をリードしていく存在になるためにも、人員の確保が必要と思う。

(委員) 地方創生を経営方針の一つとしている。地方においてもお客様を受け入れてもらうため、伴走型でやっていきたい。広告宣伝も含めて協力して、一緒になって盛り上げていきたい。

(委員) 攻めの気持ちで改革していくことが必要。2点提案だが、県も含め観音平の駐車場が必要だと考えるので要望する。馬術場周辺の桜の木が古木になり、枝が折れるなど危ないため、整備を要望する。

(委員) 来年ワイナリーのオープンを目指しているので活性化はありがたい。活性化の一部を担えるよう、小淵沢町から世界へ、グローバルな視点で情報発信していきたい。

(委員) 構想の中身については今の時代に合っている。今あるハードを活かした工夫ができれば良い。

(委員) コロナ禍が収束する中、こういった構想を立てるのはタイミングが良く、大変期待をしている。スポーツで何ができるかを考えていきたい。

(委員) 2拠点居住について、テレワーク、ワーケーションが地方に追い風になっている。ハードだけではなく、特別な体験やソフト面がこのエリアは充実しているので、例えば午前テレワークをして、午後は体験型の観光というのも有効であると考えます。

(委員) 中部横断自動車道の開通により、企業誘致等で本エリアへ来る機会が増えている。一定のエリア内で様々なことができるので企業も魅力を感じている。福利厚生施設を作らなくても、来てもらえば様々な体験ができるため、企業も注目している。

(委員) 小淵沢エリアはいくつか武器を持っている。何を観光客に提供できるかが大事。馬のまちとあるが、ハブとなる施設に例えば馬を見れるような仕掛けがあれば良い。

(委員) 観光の中では「食」が大事と考える。「一流の食」というものを重く受け止め、安全・安心な食を提供できるようお手伝いしていけたらと思う。

(委員) 観光に特効薬はない。地道な活動が必要。小さいころ修学旅行、林間学校で訪れた層が子育て世代になっている。リピートして訪ねてきているので、首都圏の子ども達を連れてきてもらいたい。また、旅行支援も後押ししてコロナ前に戻りつつある。スケート場もあくまでも一つのメニューとして、エリアへ呼び込んでもらいたい。

(委員) スケートセンターについては、地域の子ども達に使ってもらえる施設

になればよい。レジャーではなく競技や習い事としての利用もできれば、地域活性につながる。スケートはここでしかできないものとして価値がある。また、部活の地域移行が今後進められていくが、地域スポーツの受け皿として、スケート、スケボー、馬術などを振興していくと良いと思う。

(委員) 観光というよりは、目的をもって訪れる場所になるのではないかと思う。長期滞在やリピーターとなるにはどういう要素を加えることができるかが大事。芸術やアート、自然や食といったものがハブとなるのではないか。北杜はワーケーションにおいてアドバンテージがあったが、他にも地道に頑張っている地域が出てくるため、相対的に優位性が下がってしまった。今後も継続した取組が必要。

(委員) 首都圏地区の社員に小淵沢エリアを知ってもらい、宿泊を含んだコンテンツを積極的に販売していく。また、団体向けのコンテンツ販売、インバウンド向けの商品づくりに力を入れていく。日本人は土日休みが多いので、平日はインバウンドを狙うのが有効と考えている。

【以上】

(議長) 事務局から何かあるか。

(事務局) 今回、活性化構想について委員の皆様より、貴重なたくさんの御意見をいただいた。今後は、これらを踏まえ、市としての活性化構想を最終的に策定していく。また、策定後は、市ホームページでの公開や、支所等への配置など、周知に努める。

また、この活性化協議会については、本年度を持って廃止とする予定だが、4月以降は推進のための組織の創設を予定している。

委員の皆様には、昨年度、今年度と4回に渡り、本協議会に御協力を賜り感謝申し上げます。事務局からは以上である。

(議長) 本日の審議は以上で終了する。事務局に進行を移す。

(事務局) 以上で本協議会は終了とする。

5. 閉会

午後3時50分